

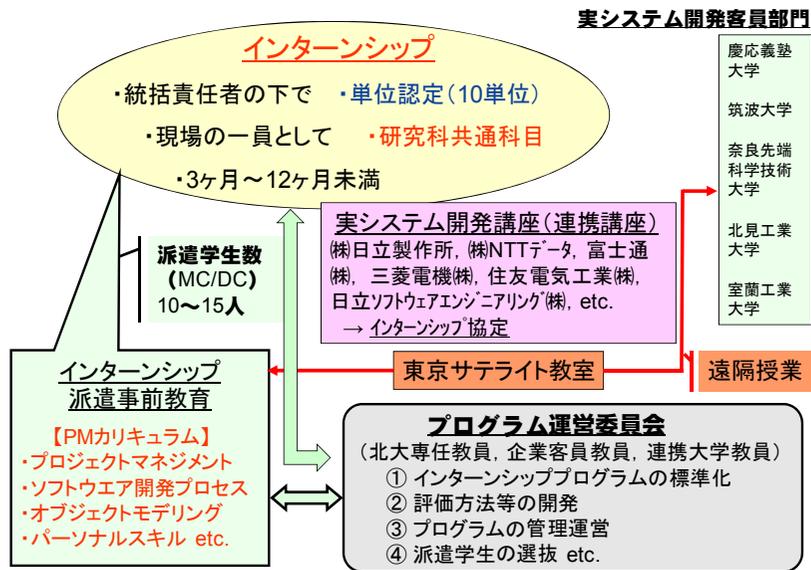
北海道大学

取組名称: 実システム開発指向高度人材育成プログラム

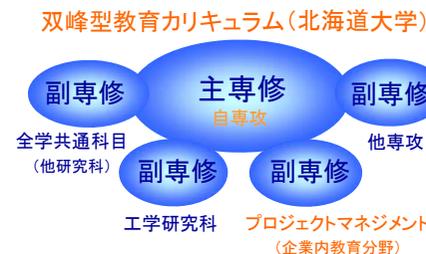
【取組概要】

本プログラムは、情報家電、組込みシステム、オンラインシステムなど、IT分野の大規模実システム開発プロジェクトを支える統括エンジニアとなりうる人材の育成を目的としています。基盤となるIT分野の高度専門技術と、開発プロジェクト全体を俯瞰し、管理統括する方法論の二つの(双峰型)専門能力を兼ね備えた高度人材育成を目指しつつ、企業と協同して、企業の研究開発部門でのインターンシップを取り入れた新しい大学院教育カリキュラムを実施します。

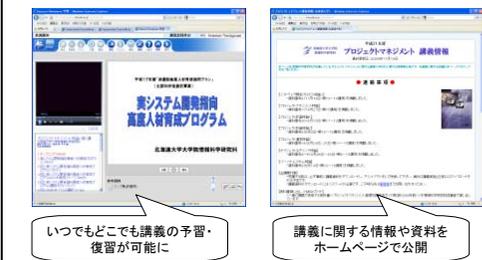
【プログラムの全体像】



【人材育成イメージ】



【eラーニング・講義HP】



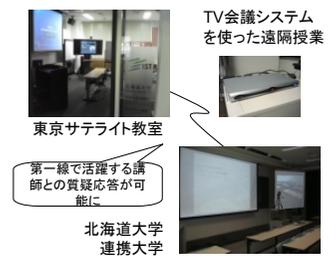
【PMカリキュラム】

プロジェクト特別演習履修のための必修科目

■ : PM系科目
□ : IT系科目

科目名	単位	講師
●プロジェクトマネジメント特論	2	PMI日本支部
●プロジェクト計画特論1	2	PMI日本支部
●プロジェクト計画特論2	2	PMI日本支部
●プロジェクト運営特論	2	PMI日本支部
ソフトウェア開発プロセス特論1	2	奈良先端科学技術大学
ソフトウェア開発プロセス特論2	2	PMI日本支部
オブジェクトモデリング特論	2	NTTデータ
パーソナルスキル特論	2	PMI日本支部
プロジェクト特別演習 (インターンシップ)	10	各企業

プロジェクト実習
プロジェクトの定義・資源調達
開発プロジェクトの実施
プロジェクトマネジメントの実践
パーソナルスキルの取得



【成果等】

本プログラムにおいて、産業界と大学が連携し、プロジェクトマネジメント(PM)という管理能力を備えた新しいタイプの優秀な技術者の教育を、最新の情報技術を駆使しながら実施することで、日本国民の生活を支える実践型の人材を育成するための具体的な方法を見出すことができました。プログラム期間を通して、遠隔授業やeラーニング等により複数の大学の学生がPMカリキュラムを受講しました。それにより、高度な技術と管理能力を兼ね備えた多くの人材を社会に輩出することができました。また、これまで実施が困難だった長期インターンシップの道を切り開き、実際に参加実績を得ることができました。

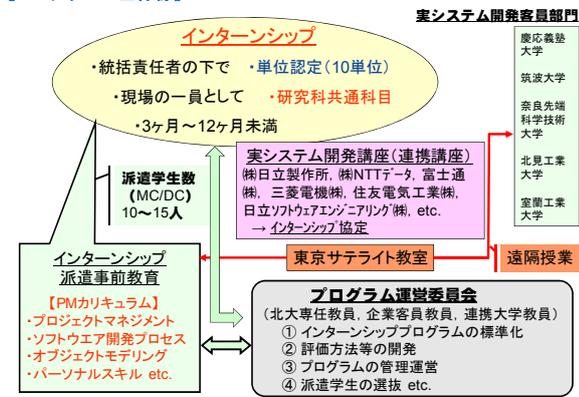
産学連携による実践型人材育成事業 ―長期インターンシップ・プログラム開発― 最終評価結果

大 学 名	北海道大学（室蘭工業大学、北見工業大学、筑波大学、奈良先端科学技術大学院大学、公立はこだて未来大学、慶應義塾大学）
教育プロジェクト名称	実システム開発指向高度人材育成プログラム
事業責任者	北海道大学大学院情報科学研究科長 小柴正則

事業概要

本プログラムは、情報家電、組込みシステム、オンラインシステムなど、IT 分野の大規模実システム開発プロジェクトを支える統括エンジニアとなりうる人材の育成を目的としている。基盤となる IT 分野の高度専門技術と、開発プロジェクト全体を俯瞰し、管理統括する方法論の二つの（双峰型）専門能力を兼ね備えた高度人材育成を目指しつつ、企業と協同して、企業の研究開発部門でのインターンシップを取り入れた新しい大学院教育カリキュラムを実施した。

【プログラムの全体像】



【人材育成イメージ】



【eラーニング・講義HP】



【PMカリキュラム】

プロジェクト特別演習履修のための必修科目

科目名	単位	講師
●プロジェクトマネジメント特論	2	PM日本支部
●プロジェクト計画特論1	2	PM日本支部
●プロジェクト計画特論2	2	PM日本支部
●プロジェクト運営特論	2	PM日本支部
ソフトウェア開発プロセス特論1	2	奈良先端科学技術大学院大学
ソフトウェア開発プロセス特論2	2	PM日本支部
オブジェクトモデリング特論	2	NTTデータ
パーソナルスキル特論	2	PM日本支部
プロジェクト特別演習(インターンシップ)	10	各企業

■ PM系科目
■ IT系科目

プロジェクト実習
プロジェクトの定義・資源調達
開発プロジェクトの実施
プロジェクトマネジメントの実践
パーソナルスキルの取得



最終評価結果

(総合評価) A: 所期の計画と同等の取組が行われた

コメント

＜優れた点＞

1. 育成人材像を双峰型と明確に打ち出したことにより、目標が明確となった。それに向かっのカリキュラムの構築と配列も判り易く、また、インターンシップ期間も長期に亘っており、それらが成果創出に繋がったと評価できる。さらに、e-learning の活用で全体の進行をスムーズに展開できたことも良かった。

＜改善を要する点＞

1. 本取組への参加者数は多いが、取組内で実施されたインターンシップの履修者数や、取組の修了者数が大変少ない。この原因の究明を行うことが必要である。また、この分野は国際競争が激しいので、国際競争力の強化をより見据えた施策が今後の課題である。
2. また、今回のIT領域をスタートに、他領域への拡大や、学内および連携先の大学にこれらの取組を浸透させることが期待されたが、残念ながらそれは明らかにならなかった。